

<研究資料>調査報告 雲南香港訪書録

著者	多田 伊織
雑誌名	日本研究：国際日本文化研究センター紀要
巻	22
ページ	167-176
発行年	2000-10-31
その他の言語のタイトル	Philological Report of a Research on Japanese books and documents in the Southwest district of China and Hong kong
URL	http://doi.org/10.15055/00000710

〈研究資料〉

調査報告 雲南香港訪書録

多田伊織

1 はじめに

昨年十二月十三日から四日間、雲南省と香港で、日本書の調査を一人で行った。短期間の予備調査ではあるが、いくつかの成果があったので、報告したい。

中国大陸に伝存する明治以前の日本書調査では、従来西南地域（四川省・雲南省・貴州省）や一九九七年に返還された香港での調査が、あまり行われていなかった。西南地域については、一つには多くの少数民族居住地域を抱え、四川省の一部を除いては日本からの書籍が流入しそももないという先入観が、いま一つは日本からの交通の

便がよくない点が調査を阻んでいた。香港については、返還以前はイギリスの植民地であり、大陸の諸機関との文化交流が制限されていた関係上、大陸で編纂された日本書目録の調査から漏れ、返還後の調査も未だ行われていなかった。

今回、このような状況を踏まえ、調査が遅れていると思われる西南地域から、雲南省の省都昆明を、香港では、香港大学と香港中文大学を調査対象に選んだ。昆明を選んだ理由は、かつて西南聯合大学が置かれており、日本書の存在する可能性があったからだ。

調査日時と機関は以下の通りである。

十二月十三日 雲南大学図書館

十二月十四日 雲南省社会科学院

雲南省図書館

十二月十五日から十六日

香港大学馮平山圖書館

調査に当たっては、昆明と香港で、次の機関と諸先生にさまざまな便宜を図っていただいた。このほかにもお名前の漏れている方々がある。失礼をお詫びすると共に、謝辞を捧げたい。

雲南省社会科学院 何文耀院長 左姪莎

国際交流処処長 陳垂輝研究員

雲南省図書館 外文圖書室

雲南大学 図書館 王文光館長 楊勇副

館長

同善本室 沈継延先生（日本書目録作成者）

香港大学 馮平山圖書館（善本圖書館）

馬泰來圖書館主任 胡美華助理圖書館

主任

同大中文系 馮錦榮副教授

香港中文大学 圖書館

2 概要

昆明 大陸での訪書調査には、さまざま

な困難があるが、今回は、雲南省社会科学院から調査をお願いする諸単位に直接紹介を受けたおかげで、比較的スムーズに調査を終えることができた。北京、上海、南京などの大都市では必ずしもこういう手法で成功を取めるとは限らないが、今後他の都市で調査を行う場合は、省の社会科学学院など上級機関からの紹介は援用できるだろう。雲南大学図書館では、館長が省社会科学院院長と師弟関係にあり、幸運なことに日本語を習得された方だったので、好意的に迎

えられ、善本調査が容易に進んだ。

今回の諸機関での調査では、閲覧に際して、研究協力の費用を求められた。大陸の研究機関では、必ずしも研究費が潤沢でなく、外部からの調査には、このように対価を要求されることが多いが、法外な価格でなければ、調査の必要経費として支払うべきだと思う。費用は一律でなく、機関や調査の内容によって任意に決められているようである。今回は百元単位の額を求められた。

大陸の機関では、おおよそ昼休みは十一時半から午後二時まで、業務終了時間は午後五時なので、一日に調査できる資料には限りがある。

善本のコピーは不可。古い線装本はだいたい善本に一括収納されているため、調査対象となる明治以前の書籍のコピーはできないことになる。雲南大学図書館善本室では、日本の研究者のために、沈継延先生が特別に自ら作成された日本書目録（稿本）のコピーを許可してくださった。他の機関

ではたいいていの目録のコピーは不可能で、メモをとることになる。

香港 香港大学には、京都大学中国学の先輩である馮錦榮先生が勤務されている。

今回は、馮先生のご助力を賜り、特別に書庫内の様子を見せていただいたり、日本書を検索していただいたりした。

植民地であった背景から、欧米の大学と同じく、香港大学、香港中文大学共に、海外からの研究者の調査以来を受け入れている。機関からの館長への以来があれば、問題なく調査できる。

両大学とも図書館の開館時間は夜十時頃までと遅くまで利用できる。ただし、善本室については、図書管理の観点から、夕方には利用時間が終わる。又、善本については、館長の閲覧許可が必要な場合もあり、館長不在の時には閲覧できない資料もある。香港大学では貴重本のコピーは不可だが、線装本でも普通本扱いであれば、コピーは可能である。

目録はどちらの大学も公開している。香

港中文大学では、昨年『香港中文大学図書館古籍善本書録』を発刊したところで、これによって日本書の検索ができる。香港大学では、館内の端末で検索する完全なオンライン目録ができています。ただし、目録採取時に日本書は中国書に紛れて分類されていることがあり、キーワード検索だけでは対象となる書籍の発見は難しい。馮平山図書館を熟知している馮先生のアドバイスがあったからこそ、いくつかの資料を見ることができた。

香港大学の例に限らず、日本書に対する認識は香港・大陸を問わず似たような部分があり、中国書として分類されている場合が少なくない。その点で、雲南大学の沈継延先生、香港大学の馮錦榮先生のような、日中（沈先生の目録では、朝鮮書・越南書の分類もされている）の書籍の異同に詳らかな碩学の助けが、今後の調査に大きな力となるだろう。ことに、沈先生が、日本関係資料がそれほど豊富にない昆明にあって、困難な状況で外国書の目録を編集されたこ

とは特筆に値する。真の知日家としてひそかに尊崇する次第である。

3 日本書の整理状況

今回訪問した機関の日本書の整理状況は以下の通りである。

昆明

○雲南大学 善本目録（沈継延先生作成）
日本書あり。

○雲南省社会科学院 善本室はあるが、今回閲覧し得た日本書には特にかわったものはなかった。

○雲南省図書館 古い日本書はない。

△今回訪問できなかった雲南師範大学は一時、西南聯合大学が置かれたところ、旧蔵書がある可能性。

香港

○香港大学 馮平山図書館 香港大学の善本図書館。馮錦榮先生の協力で、目録にあがっていない日本書（伊藤仁斎『古学先生別集』稿本など）を見せてもらう。今後、馮先生と協力して、新た

に日本書目録を追加する必要がある。

◎香港中文大学図書館『香港中文大学古籍善本書録』が一九九九年完成。整理された日本書については、目録に載っている。

以下には、成果のあった雲南大学と香港大学の調査について述べる。

4 雲南大学の日本書

雲南大学善本室には、沈先生作成の目録によれば、八五部の古い日本書が収蔵されている。そのうち、調査対象となる明治以前のものは三三部ある。（沈継延「日本書目録」稿本抜粋参照）今回は、一人で調査したので、目録中のすべての対象図書进行调查することはできず、数部を目撃するに止まった。

沈先生によると、雲南大学に所蔵されているこれらの日本書は、貴州大学旧蔵の善本で、一九五四年、中国政府の命令により、貴州大学の善本コレクションが、雲南大学、四川大学などに分割贈与されたということ

である。従って、雲南大学所蔵の日本書善

本はすべて旧貴州大学蔵にかかるといえる。中国に伝来した日本書の流通を調べるためにも、貴州大学、四川大学でさらに調査をして、元のコレクションの全容をさぐる必要がある。現時点では、旧貴州大学蔵日本書の来歴などはわかっていない。

限られた時間で調査しえた書籍の中に、伊澤蘭軒の手抄本が含まれていたもので、以下に紹介する。

5 伊澤蘭軒手抄本『華氏中蔵経』について

雲南大学図書館蔵(旧貴州大学図書館蔵)

伊澤蘭軒手抄本『華氏中蔵経』巻下 療諸病藥方六十道 一冊

正楷写本 屋代弘賢蔵掃葉山房本の写本 日本からの流出経路

現在まだ不明だが、伊澤家の子孫が、蔵書をまとめて書肆に売り払い、大陸に伝来したもの的一部らしい。(茨城大学 真柳誠氏のご教示による) 現在日本には伊澤蘭軒氏旧蔵本はほとんど残っており、ことに

手沢本は貴重とのこと。

体裁

元は十行十八字本だが、抄本ゆえ、十九字、二十字などになる。

表紙は後補。無題簽(中国の書目を孔版印刷した更半紙を裏返して用いる。貴州大学旧蔵時に補ったもの)

本の表紙は、粗い繊維の混じった灰褐色の紙。

やや虫損。薄葉紙の間にやや厚い白紙を裏打ち。

所々に「国立貴州大学図書館蔵書之章」楕円印を押す。

一表 伊澤氏酌源齋圖書印

目録 萬応図

第一葉のみ格あり。原本の体裁を忠実に写したものの。この葉は裏打ちし以後、無格。

藍点

朱字にて校勘書き入れ。主に孫星衍本による。

伊澤蘭軒の校勘

「」は校異 □は空格 ()は孫本による補訂

一表

沢瀉「二」両 八孫

一裏

「後」藥 后孫

芸臺二両 炒孫

「□」 鼈甲^{三両}孫^{醋炙}

二表

未動「再服」 再服二字 孫本細字

「小兒妊婦及老人□與服」^{按闕文}疑不字(割注は原注)

頭注

孫本 小兒以下細字而與服字接

人下作勿服

二裏

膈氣：「夜一服」 三字細字孫

「成」勞 盛孫

「日三服、漸安減服」 七字細字孫

大小便：「未通加至七元」 以下細字孫

九種：「立止」 細字孫

脚氣石楠湯：「每日食前服」 以下細字孫

三表

胎衣：「燒秤綫」稱孫 鍵曰「□」
〔通紅孫〕

三裏

剝離裏 貴州大学の印

卒心腹痛条

如常服一丸：「毎日二服」以下細字孫

四表

安香丸条

右為米、煉蜜成「臍」 劑孫

四裏

化下四「元」、圓孫

老幼皆一「元」 圓孫

六表

起蒸中央湯条

彈子大一「元」 圓孫

補藥麝臍圓

白朮 孫本以下有二字空処

六裏

醉僊丹条

大附子三「両」 箇孫

七表

靈鳥丹条

空心酒下七「元」、加至十「元」 圓
孫下同

扁鵲玉壺丹条

祛萬「病」 痛孫

七裏

右以新妙飲為丸：下十「元」 圓孫

葛之真人百補^{高宗廟諱}精圓

杜仲三両「削」去「麋」皮剉碎

孫无 孫无

十裏

治心痛不可忍者条

木香 蓬木^{各一両} 乾漆^{一分炒}

右為末、每服一錢、熱醋湯調下、入口立止

止

〔有添紙〕

永類鈴方引中藏經 九種心痛欲死、木

香栽朮乾 漆炒等分、細末、熱醋湯調

一錢、一口即止

取長虫、兼治心痛方条

「雄黄 錢一」

頭注 孫本 雄黄一錢四字

十一表

治虫毒方条

雄雀糞^{各二両} 一孫

十一裏

治虫毒方条

「其」水和成油「〔飢〕」

共孫 餅孫

破棺丹条

丹砂^{一両白細} 研孫

十四表

通中延命「元」 玄孫

十五裏

百生方条

米飲調「下」、立効 一分孫

治漏胎「腸」損方 胎孫

白茯苓 孫本以下有

二字空処

治婦人「月」崩方 血孫

十六表

治婦人月崩方条

枳殼^{二錢} 炒

頭注 孫本麤作麴

三不鳴散条

取水：下割注 取活者「不如後法麝香

酒飲空心下」

頭注 按、孫本取活者下作一箇如後法

射香酒食空下

甘草湯条

解「百」藥毒 方孫

十七表

槐子散条

槐角中黑子

用孫

各一服「□」已止 病孫

十七裏

治暴喘欲死方条

若虚人肺虚「胃」冷者 孫无

十八裏

千金膏条

黄丹各「□」 分孫

十九表

香鼠散条

香鼠「□」 皮孫

二一表

又取黄丁方条下

陸本元

控一行孫

二一裏

治青丁方 止

二二表、二五表 跋語

余少誦華陀伝：

案、宋樓鑰跋華氏中藏經云々

樓鑰 攻媿集六九

二五表

書凡一卷、後附方六十道、因為上下二

卷云。

乾隆五十七年秋九月茂苑周錫瓚識

於楓橋之香齋書屋

二五裏 伊澤蘭軒自跋

清周錫瓚取校刻中藏經上下二卷、屋代弘賢

君之所藏也。頃假借來讎之、今行吳氏刻本

而上卷病論者可拔而理之。下卷藥方者前後

多少淆錯無条矣。因影鈔下卷云。

文化甲子臘月「朔」

伊澤 慥識

(有三印)

伊澤蘭軒の識語にあるように、この手抄

本は、文化元年（一八〇四）當時行われて

いた明・吳勉学等校刊本（蘭軒がどの本を

用いたかは未詳）による『華氏中藏經』の

下卷末の「療諸病藥方六十道」に錯簡が多

いたために、清・周錫瓚の掃葉山房本（清・

嘉慶五年（一八〇〇）刊）を屋代弘賢に借

り、写したものである。朱注は、孫星衍の

平津館叢書本（清・嘉慶十三年（一八〇八）

刊）と周本との校異を付している。蘭軒は

のち三本の優劣を比較し、文政九年（一八

二六）四月に「吳刻中藏經跋」をつくって

いる。（森鷗外『伊澤蘭軒』その百七十三に

も載せる）

6 香港大学

前述のように、香港大学図書館では、蔵書目録をオンライン化しているが、馮先生の実見するところでは、日本書の整理状況は十分とはいえないということである。日本書の扱いに慣れていないのが原因である。未整理の書籍も少なからず存在するという

ことだった。

香港大学では、イギリス統治中に多くの古籍コレクションの寄贈を受けている。特に J. R. MacEwan 氏旧蔵のものには、中国書、日本書を問わず善本が多い。MacEwan 氏は香港在住のイギリス人で、古籍に興味を持ち、いろいろなジャンルの善本を集めていた。コレクションは氏の没後、遺族によって香港大学に寄贈された。(コレクションとして別置されてはいない)

このなかに、伊藤仁斎の『古学先生別集』の稿本が含まれていたので、以下に紹介する。

7 J. R. MacEwan 氏旧蔵伊藤仁斎『古学先生別集』稿本一冊 (香港大学蔵)

表紙は灰色、題簽に「古学先生別集」。

『古学先生別集』稿本は現在一冊。目録によると、

一表

卷之一

易乾坤古義 附大象解

卷之二

仁斎日札

読近思錄鈔

附 古学先生和歌集

送水野防州公序

(二裏は白紙)

となっている。

しかし、実際の内容は、

二表 二四裏 易經古義

二五表 三四裏 大象解

三五表 五二表 仁斎日札 (止)

と目録の途中で終わっているもので、本来は二冊以上あったと思われる。

本文中には、異筆の校勘が随所に付されている。刊行を前提とした校正であるかもしれない。

『国書総目録』では、『古学先生別集』は、次の写本二本が知られている。

国会図書館本 宝暦十四年写 四冊

天理大学本 宝暦十四年写 五冊

天理大学本と国会図書館本とは冊数が異なる。

るので、どちらかが香港大学本と関係するかもしれない。

8 今後の調査について

今回の雲南・香港の調査から、両地域にも日本書が数多く存在することがわかった。貴州大学旧蔵本のなかに伊澤蘭軒手抄本が含まれていたことから、今後、医書を中心にして、貴州大学旧蔵本の再調査が必要であると思われる。

香港については、香港大学で未整理の日本書をさらに調査する必要がある。未整理書籍については、現地の研究者の協力が不可欠である。香港中文大学については、目録が出版されたばかりで、これを手がかりに調査が可能だ。今回は残念ながら時間が足りず、香港中文大学での調査はできなかった。今後、今後に期待したい。

付 沈継延日本書目録抜粹

	書名【】は四部分類	冊数△は残冊	編著者	初刻	刊行年次	西暦	刊行者	体裁
	【經部】							
1	經典釈文三十卷考証二卷	一一	唐・陸德明撰 清・盧文弨考証		享和元年	一八〇一	明道館	刻本
2	經義撮說一卷	一	山本信有	寛政九年		一七九七		刻本
3	下学集二卷	三	東麓破衲著	元和三年	元和三年	一六一七		刻本
	【史部】							
4	漢書評林一百卷		明・凌稚隆輯		明曆三年	一六五七	松栢堂	刻本
5	小腆紀年附考三十卷	一二	清・徐鼐撰		光緒十二年	一八八六	日本使署	鉛印本
6	大日本史二百四十三卷又補卷	△五三	源光圀修 源綱条校		文化十二年	一八二九		刻本
7	魏鄭公諫五卷	二	唐・王方慶撰		文化七年	一八一〇		刻本
8	魏鄭公諫統録二卷	二	元・翟思忠撰					刻本
	【子部】							
	(儒家類)							
9	說苑二十卷	一〇	漢・劉向撰				江戸書林千鐘房	刻本
10	忠經集註詳解一卷	一	漢・馬融撰 鄭玄注 日本・宇都宮由 的(遜庵)詳解	元禄二年刻	文政八年	一八二五		印本
11	世範校本三卷	二	宋・袁采撰 明・陳繼儒訂 日本・片 山信校		嘉永三年	一八五〇	浪華前川善兵衛	刻本
12	(刪定)紀効新書十四卷並附録	六	明・戚繼光撰	弘化二年刻	文久三年補	一八六三		刻本
13	千慮策三卷附淳熙薦士録	三	宋・楊万里撰	寛政十年?	安政四年	一八五七		刻本
14	聰訓齋話二卷	二	清・張英撰		天保八年	一八三七		刻本

30		29	28	27		26	25	24	23	22		21	20	19	18	17		16	15	
阿毘達磨俱舍論圖紀四卷	(仏家)	王陽明出身靖乱録三卷	箋注蒙求校本三卷	群書治要五十卷(不全本)	(その他)	建殊録一卷並附録	医略抄一卷	国史医言鈔四卷	華氏中藏經八卷	痘科鍵刪正補注二卷		千金翼方三十卷	備急千金要方三十卷	脈学輯要三卷	黄帝八十一難經疏証二卷	存誠藥室叢書七種	(医書類)	棠陰比事三卷	韓非子識誤三卷	(法家)
四		三	三	二五		一	一	二	一	六			二	一	二	四三		三	二	
唐・玄奘訳 日本・蓮室秀翁図紀		明・馮夢龍編	唐・李瀚撰 宋・徐子光補注 日本・岡白駒箋注	唐・魏徵撰 細井徳民等校		嚴恭敬浦輯	丹波政忠撰 多紀元簡校	吉田維通輯	魏・華佗撰	明・朱異撰 日本・池田独美注		唐・孫思邈撰 宋・林億等校正	唐・孫思邈撰 宋・林億等校正	多紀元簡撰	多紀元胤輯	多紀元胤等輯		宋・桂万榮撰	清・顧広圻撰 日本・山田政徳等校	
元禄八年			明和四年			宝暦十三年				文政十三年					文政五年					
元禄八年			安政五年?	天明七年		文政八年	寛政七年	嘉永五年	文化元年	文政十三年		文政十二年	嘉永二年	寛政七年	文政二年?				弘化二年	
一六九五			一八五八	一七八七		一八二五	一七九五	一八五二	一八〇四	一八三〇		一八二九	一八四九	一七九五	一八一九				一八四五	
		弘毅館	川勝次郎	尾張国		大阪加賀屋		日五書房		古我堂			江戸医学館	江戸万籟堂		聿修堂		江都青黎閣		
刻本		刻本	刻本	刻本		刻本	刻本	刻本	伊澤蘭軒手抄本	刻本	影元大徳十一年 梅谿書院本	影刻宋本	刻本	刻本	刻本	刻本		刻本	刻本	

34	孤山先生遺稿十六卷	一二	藪愨（孤山）撰 藪将泰輯	文化十三年		一八一六	大阪藤屋係兵衛	刻本
33	宋大家蘇文公文鈔十卷	四	宋・蘇洵撰 明・茅坤評		安政四年	一八五七		刻本
	【集部】							
32	郭注莊子十卷	五	晋・郭象注		天明三年	一七八三		刻本
	（道家）							
31	校正四座講式	△一	高弁撰 理峰校		宝曆九年	一七五九	普門院	刻本

一部を除き、明治以前のものに限定した。

本調査は、文部省科学研究費補助金・基盤研究（A）「明治期に中国へ流出した日本寺院旧蔵文書に関する総合的研究」（代表・千田稔教授）の補助を受けて行ったものである。